

重要文化財

静岡県伊場遺跡群出土品

Artifacts of Iba Sites in Shizuoka Prefecture

浜松市

Hamamatsu City



■伊場遺跡群出土品の概要

令和7年9月26日 重要文化財指定

伊場遺跡群とは 伊場遺跡群は浜松市南部の海岸平野に立地する9つの遺跡で構成されており、その範囲は東西1.6km、南北1.1kmに及びます。弥生時代後期については、居住域のほかに墓域や水田域が検出されていますが、そのうち、環濠集落である伊場遺跡、梶子遺跡、鳥居松遺跡の3遺跡が主要な遺跡として挙げられます。

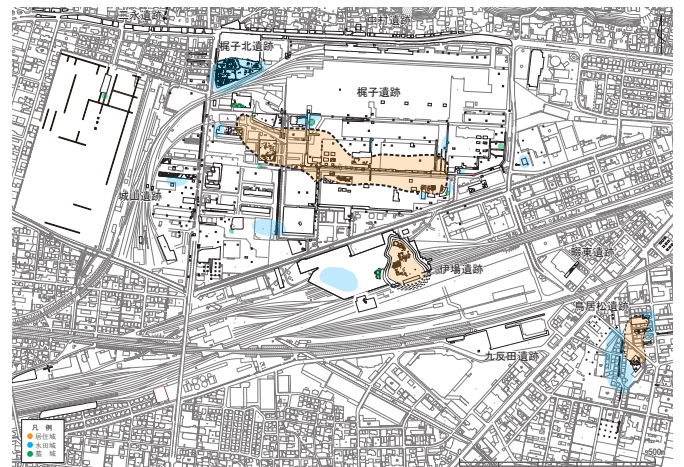
なかでも、伊場遺跡では東西120m、南北150mの規模に及ぶ三重の環濠で囲まれた集落が確認されており、木甲や青銅器、祭祀用の土器・土製品などを含む多種多様な遺物が出土しており、伊場遺跡群の中でも中核的かつ特殊な存在であったことがうかがえます。



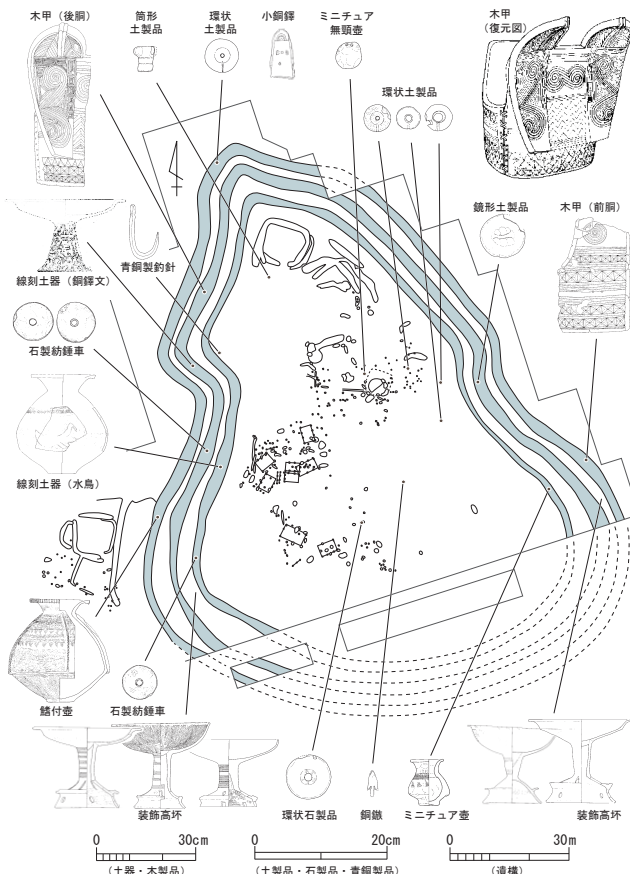
伊場遺跡で検出された三重の環濠



伊場遺跡群位置図



伊場遺跡群における弥生時代後期の遺構分布



伊場遺跡の環濠集落

伊場遺跡群出土品の概要 伊場遺跡群における弥生時代後期の出土品には、土器・土製品、石器・石製品、木器・木製品、青銅製品、ガラス製品があります。遺跡群全体での出土品の総量は数万点にのぼりますが、そのうち伊場遺跡の出土品を主体とする605点が重要文化財に指定されています。

その中でも特に注目されるのが、複雑・精緻に文様が彫刻され、漆塗りにより赤彩・黒彩を施した木甲です。また、この他にも、西遠江の地域的特色を示す土器群、装飾付高坏や家形土器などの特殊な土器、他地域の影響を受けた土器、銅鐸・鏡などを模した土製品など多岐にわたる出土品が含まれます。

これらは、当地域における弥生時代後期の日常生活や生業、精神文化の在り方をよく表しているとともに、他地域との交流を示す出土品からは、当地が西日本的弥生文化圏の東限にあたることがわかります。伊場遺跡群出土品の諸要素は、弥生時代の社会や文化の推移をたどる上でも極めて重要な情報をもつものと評価できます。

■木甲

伊場遺跡の環濠内から、前胴の右胸部分と後胴の左背部分の破片が出土しています。右側の写真の手前が出土品で、奥は全体の形を推定して再現したものです。渦巻文や綾杉文などの精緻な文様が刻まれ、後胴には翼状の突起が表現されています。素材はヤナギ材を使用しています。表面全体を水銀朱とベンガラを併用して赤く塗り、外縁部や文様の一部は黒色の漆で塗られています。

後胴にみられる翼状の突起は、鳥の羽を表現したものと想定され、赤色塗彩を主体とした鮮やかな色彩などからも、祭祀的な性格の強さがうかがえます。

この木甲の製作地は不明ですが、北部九州で類似した装飾性の高い木甲やその未成品が出土していることから、製作技術の淵源を北部九州に求めることができるでしょう。



木甲（伊場遺跡出土） ※奥は復元品

■土器

伊場遺跡群から出土している弥生時代後期の土器は、壺、鉢、甕、高坏を主体とし、器形や櫛描文を多用する施文技法などの特徴は、伊勢湾沿岸に分布する土器様式圏に含まれるものです。この土器様式圏は天竜川を境界にしており、銅鐸祭祀文化圏の広がりとも共通しています。一方で、装飾付高坏や家形土器、鰭付壺など伊場遺跡群に特徴的な土器も存在するなど、地域性をうかがうことができます。また、他地域から持ち込まれた土器も出土しており、当時の地域間交流を示すものとして注目できます。



弥生時代後期前半の壺と高坏

伊場式または山中式西遠江型と呼ばれる土器です。口縁部や脚部など端部が外反し、櫛描の波状文や扇形文、横線文が多用されます。



装飾付高坏 脚部の突帯と多段の透かし孔が特徴で、木器の模倣品と考えられています。



家形土器 鳥居松遺跡から出土しました。豊作を祈る祭祀に使われたとみられます。



鰭付壺 伊場遺跡の発見時に出土しました。縦横に鰭状の装飾が付いた独特な壺です。



弥生時代後期後半の壺と高坏

欠山式と呼ばれる土器です。口縁部や脚部など端部が内湾する個体が多く、刺突による文様が多くみられるようになります。



東遠江の土器 天竜川以東からの搬入品です。胎土は白っぽく、壺はやや長細くて、高坏は直線的な造りをしています。



南関東の土器 現在の東京都や神奈川県東部付近の特徴をもつ土器です。遠隔地との交流の様子をうかがうことができます。



■くらしや生業にかんする出土品

伊場遺跡群では、高床建物の梯子や割り抜き式の井筒など生活にかんする木製品のほか、鍬、鋤、杵などの農具、魚を獲る網杵など生業にかんする木製品が出土しています。

石器は、木の伐採や加工に用いられる磨製石斧のほか、食材の加工に用いられる磨石や敲石、道具の研磨に用いる砥石が出土しています。

その他には繊維を撚り合わせて糸を作る道具である紡錘車の出土が注目されます。紡錘車は糸を巻き付ける紡茎と回転のはずみ車となる紡輪からなりますが、紡茎は木などの有機質とみられ、出土するのは石製や土製の紡輪部分です。伊場遺跡の環濠やその周辺で多く出土することから、糸の生産を集中して行っていたことがうかがえます。



割り抜き式井筒の出土状況
ケヤキ製。長さ1.7m以上、直径60cmを測る。



磨製石斧



平鍬と柄



杵
脱穀に用いられる



紡錘車

■祈りにかんする出土品

伊場遺跡群では、ミニチュア土器のほか土製の模造品が多数出土しており、それらを用いた儀礼が行われていたと考えられます。なお、銅鐸そのものは出土していないものの、飾耳や小銅鐸、銅鐸形土製品、銅鐸の文様をあしらった高坏などが出土しており、銅鐸に関係した祭祀が行われていたこともうかがえます。銅鐸の絵画でよくモチーフとなるシカや鳥が描かれた土器も確認されています。

墓は、方形周溝墓や土器棺墓、土坑墓が確認されています。伊場遺跡群の中でも西寄りに位置している城山遺跡の土坑からはガラス玉などが出土しており、被葬者が身に付けていたものと考えられます。



ミニチュア土器



土玉



鏡形土製品



環状土製品・石製品



青銅製品〔釣針、鍬など〕



銅鐸飾耳、小銅鐸、
銅鐸形土製品、
銅鐸の文様の高坏



絵画土器
〔手前：雄鹿、奥：鳥〕



ガラス玉と碧玉製管玉



※伊場遺跡群出土品は、浜松市博物館で所蔵しています。また、伊場遺跡の一部を史跡公園として保存しており、見学することができます。